

ストックホルム世界水週間への参加報告

国際戦略室 今島祥治

スウェーデンというと何を連想されますか？

イケア、H&M、ノーベル賞、ボルボ、ABBA、SAAB、ヴァイキング…。挙げればきりがありませんが、とあるランキングで「スウェーデンと言えば？」という問いの答え第1位は、「よく知りません」ということでした。そう言う私も「よく知りません」の部類でした。

そのような中、ストックホルム世界水週間でプレゼンをしてきてほしいという依頼があり、筆者もこのイベントに参加することとなりました。ストックホルム世界水週間は、水と衛生の世界的な諸問題について、公共セクターだけでなく、民間セクターや研究界のセクター間で意見交換する重要な枠組みで、1991年以來、毎年スウェーデンのストックホルムで開催されています。

今年は、世界水週間の中に「Water Cycle Management」という題で、アジアフォーカスセッションが設けられ、筆者からは、「良い水循環管理を達成するための污水管理改善のための努力」という表題で、JICAが融資した「ホーチミン水環境改善プロジェクト」の紹介と日本が主導している「アジア污水管理パートナーシップ (AWaP)」の取組について紹介をしました。



セッションでの発表の様子

また、今回のストックホルム世界水週間では、ファイナンスのセッションにも参加しました。このセッションでは、「Blended Finance」をキーワードに進められていました。「Blended Finance」は、2018年ごろからOECDが推進しているコンセプトで、開発途上国における水関連事業への民間資金の導入を促進するため、援助資金 (ODA) と民間資金を混ぜて (Blended) 建設費に充てようという考え方です。

JICA研修などの講師をしてきて、感じるのですが、日本の下水道財政は、世界的に見て特殊だと思われがちです。「日本だからこの財政制度ができたのだろう」と。しかし、日本の下水道の財政制度も、その目的と性格はOECDが推進している「Blended Finance」と共通していると考えられます。つまり、公的な資金である国庫補助金をベースに民間資金の地方債による資金調達であると考えられます。今後、日本の財政制度を説明する際には、非常に参考になるセッションでした。

そして、最終日には2020年に熊本で開催が決定しているアジア・太平洋水サミット (APWS) の熊本宣言に盛り込むべき内容について、議論をしました。私からは、污水处理は、水循環の第1ステップであり、特にアジアにおいては污水管理が良好な水循環のボトルネックであるという観点から、污水管理も治水等と同等に扱ってほしいとお願いをしました。今後、今回のプレゼンテーション等を基に熊本宣言の議論がされる予定です。

さて、ここからはストックホルムでの生活、フリータイムのことについて記述しようと思います。私がストックホルムに出張に行った8月末は、まだまだ日が長く、21時ごろまで明るい状態でした。そのため、仕事が終わってからが長い感じで、体力の続く限り、街を歩いてみたり、少し観光してみたりという時間が取れました。



ストックホルムの旧市街地の街並み

宮崎駿監督の作品で、「魔女の宅急便」というアニメがありますが、旧市街のガムラスタンは、そのアニメの街並みのモデルになったそうです。北欧には、初めて訪れたのですが、石畳にカラフルな家々が非常に印象的でした。

色とりどりの家並みの下の石畳の間には、マンホールが点在しています。やはり職業柄マンホール蓋に目が行ってしまいます。下水道は、スウェーデン語で「Avlopp」と言うそうで、写真の「A」

の文字は、「Avlopp」のAだと思い、写真を撮ってきました。このマンホールは、ストックホルムの旧市街地ではスタンダードなようです。イケアに代表されるように、シンプルかつ機能的なデザインを好むスウェーデンらしいマンホールだと思いました。ちなみに、ストックホルムの下水道は、合流式下水道だそうです。新市街地では街中でバキュームカーが作業していたりしていたので、もしかしたらセプティックタンクが各戸に設置されているのかもしれませんが。



ストックホルムのマンホール

また、ストックホルムは、超キャッシュレス社会で、町はずれの小さなお土産屋さんでも必ずと言って良いぐらいクレジットカードの読み取り機が普及していますし、スウェーデン人はコーヒー1杯でもカードで支払っています。マクドナルドも食券制のようで、食券の販売機には、カードの読み取り機だけしかなく、現金は使えない雰囲気でした。ちなみに、ビックマックは、50クローネ（700円程度）、スーパーの玉子は、15個パックで38クローネ（532円）、10個換算でも355円程度と、スウェーデンの物価は非常に高く、福祉国家の税金を実感しました。



工事現場の除き窓（子供用）

工事現場には、子供用の除き窓があり、住民の理解を得るための努力も見られました。

最後になりましたが、今回の出張でお世話になった日本水フォーラム様、国土交通省様、日本サニテーションコンソーシアムのメンバーの皆様をはじめ、関係各位に感謝を表します。